

1 プロジェクト名

あおぞら 陶芸教室

2 実施日程

令和2年 10月 17日(土) 紐づくりによるコップ制作と自分の体を使ってお皿制作  
 10月 31日(土) 釉薬をかけよう・釉薬の仕組みを知ろう・絵付けに挑戦  
 11月 7日(土) 陶器作品の鑑賞会

3 実施内容

学生に向けた陶芸教室実施（合計3回）

10月 17日(土) 紐づくりによるコップ制作と自分の体を使ってお皿制作

◆紐づくりによるコップ制作と自分の体を大きく使ってお皿制作

ーコップ制作についてー

粘土（約2～5kg）を使ってコップを制作していく。用いる技法は紐づくりという技法で古来より用いられてきた技法である。その事前知識と歴史を説明したうえで活動に取り組んでもらう。装飾には自分が描く絵付けと、植物を用いた装飾をしてもらう予定である。構成員は巡回指導及び作品記録を行う。

ーお皿制作についてー

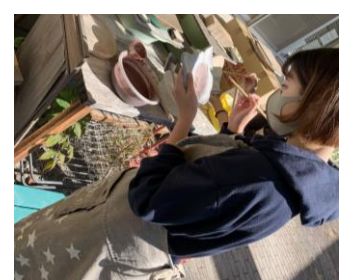
同じく粘土（約2～5kg）を用いて活動する。まずは粘土を荒ねり（粘土の硬さが等しくなるように練る活動）を行い、板状にしていく。好きな形にワイヤーやクシなどで切る。そののちにガーゼを用いて頭やひじ、膝の方をとって、それをお皿としてデザインしていく。この時も装飾は植物をとってきて判としてもちいて装飾する。



10月 31日(土) 釉薬をかけよう・釉薬の仕組みを知ろう・絵付けに挑戦

◆釉薬をかけよう・釉薬の仕組みを知ろう

釉薬の焼成前と焼成後でどのように釉薬が変化するかを映像メディアを用いて実際に知ってもらう。この時、成分として含まれる鉱物が色の変化にどのように関わっているのか知ってもらう。



11月 7日(土) 陶器作品の鑑賞会

◆出来た陶器の鑑賞会

鑑賞の活動を通して、他の人がどのように装飾し、どのような釉薬を使っているのかを見て、それぞれの作品の持ち味を鑑賞してもらう。図画工作に関連させて鑑賞の授業の重要性もしっかりと伝えていく。思い出になるように冊子を作って配布。



#### 4 新型コロナウイルス感染拡大防止の工夫

##### ①指導について

- ・学部生（留学生を含む）と大学院生（留学生を含む）にクラスを午前と午後に分けて16名以下で活動を行った。
- ・集合時間前に教室と道具をアルコールで消毒し、活動中は換気を徹底して行った。
- ・アルコール、石鹸などを教室内に準備した。
- ・マスク、ハンカチ（手を拭くため）などを各自で準備しておくように呼び掛け、使いまわしなどをしないように対策した。
- ・道具の使いまわしをする際は一度洗ってからするように注意喚起及びあおぞら陶芸教室の構成員は道具をアルコール消毒して巡回した。
- ・指導者は常にマスクとフェイスシールド着用し、手指や共用する使用道具の消毒を行った。
- ・参加者がマスクを忘れた場合のため予備のマスクを用意しておいた。

##### ②密集密接を避け、講義室の大きさに適した参加人数の設定について

教室は換気を徹底して行う。教室には、4人で座ることができるテーブルが8つある。向かい側に人が座ることを避け1テーブル二人ずつ座ることで密を避けた。一回の活動で定員を16名にした。多い場合は日程を変えたり時間をずらすなどしてより多くの学生が参加できる体制にしようと考えていたが、今回は16名以下だったので予定通り行った。

##### ③道具の使いまわしの方法（道具などの追加購入の必要）について

使いまわしが不可能な道具（粘土等）は余分に購入を考慮しなおした。道具を使いまわす際には構成員が手袋などを装着したうえでアルコールで逐一消毒をしていった。

##### ④指導のときのソーシャルディスタンスを保つ方法について

本来は1テーブル4人で座ることができるが、今回は向かい側に人を座らせないようにすることで1テーブル2人で活動していく。

##### ⑤配布物の有無と準備方法について

指導はPPと板書で行った。

鑑賞の冊子を作った。これを配布する際には一人一人に構成員が配布し、密になることを避けた。

5 経費の使途

事 項	数 量	単 価	合計金額	備 考	
令和2年度学生プロデュース企画 予算管理					
企画名：あおぞら陶芸教室					
採択額			¥65,000		
執行金額			¥48,246		
残額			¥16,754		
事項	規格	数量	単位	執行金額	備考
マスク	1箱 (50枚入り)		1 個	1250	
配送料			1 式	610	
フェイスシールド			1 式	1055	
信楽粘土	かね利 上信楽 (20kg)	4	個	9812	
黒泥	かね利 20kg	2	個	7766	
テラコッタ	かね利 20kg	2	個	5016	
桜花釉薬	粉1kg	3	個	3432	
黄瀬戸釉薬	1kg粉	3	個	3168	
ひわ釉薬	1kg粉	3	個	3168	
西洋絵の具	ライトブルー 256-770	1	個	668	
西洋絵の具	ライム 256-50	1	個	668	
西洋絵の具	カリア黄色 256-733	1	個	668	
西洋絵の具	スカレット 256-742	1	個	668	
西洋絵の具	ベビィブルー 255-254	1	個	668	
ぞうきん	10枚	1	個	600	
ポリ袋	カウネット 4277-9476	1	式	251	
A4カラーコピー用紙	コクヨ LBP-FH2810 100枚ノ	4	個	4158	
印刷代				300	
印刷代				4320	
合 計				執行金額	¥48246

## 6 プロジェクトの成果

今回、このプロジェクトを企画しようと考えた動機は、3つある。

1つめは昨年度の免許更新講習の際に行ったアンケートから、陶芸をする設備が整っている学校であっても陶芸を扱っていない学校が多いことが分かったからである。その陶芸を扱わないという回答の理由には陶芸に触れたことがないことや陶芸の知識がないという理由の回答が多かった。本学でも図画工作の講義を受講する学生のうち、陶芸を扱う授業を受けることができる学科は限られている。陶芸教室に参加することで、陶芸の魅力を知り、少しでも陶芸に触れ、知識を身に着けたことで少しでも陶芸に対する親しみを持ち、将来的に教育の場でいかしてほしい、あるいは生涯の中でこのあおぞら陶芸教室を陶芸と関わるきっかけにしてほしいと考えたからである。

2つめは砥部焼をしている窯元に見学に行った際に聞いた「技術が進み効率化を図ることに重点を置く社会になっていく中で人々の伝統工芸に触れる機会や手作りの良さを知ってもらう機会が減っている」という職人の言葉から、教員を目指す学生に教育という視点から美術と地域社会をつなげるきっかけの1つとして陶芸があるという事を知ってもらいたいと考えたからである。

3つめは、この新型コロナウイルスのために、特に新入生は同じ学部の仲間でさえ知り合いがないという話を受けて、この、あおぞら陶芸教室が少しでも交流の輪を広げることができる機会になればいいと考えたからである。

今回のプロジェクトの目的として参加者には以下の5つの成果を目的としていた。

- 参加者に物を作る楽しさを知ってもらう。
- 自由に創造することの楽しさや可能性と陶芸制作における確かな知識と技術を身に着けてもらう。
- 実際に自分が作ったものを使うという過程から、工芸の文化への親しみを持ち、日常生活にある美術や工芸に関心を持ってもらう。
- 釉薬の色の変化や粘土の収縮率から他分野の知識と関連させることで実技科目を活かした横断的な授業の可能性を学生に考えてもらう。
- 粘土という素材への知識を深める。伝統工芸への知識を深める。

今回の活動の最終日に以下のような項目でアンケートを実施した。

1. あおぞら陶芸教室よりも以前に（大学の授業でも可）陶芸に触れる機会があったか
2. あおぞら陶芸教室に参加して陶芸の知識が深まったか
3. あおぞら陶芸教室は楽しかったか
4. あおぞら陶芸教室の満足度
5. あおぞら陶芸教室での発見や学び
6. 感想や質問
7. 今後に向けての改善点

アンケートによると今回、あおぞら陶芸教室の参加者の中で、約半数が大学の授業も含めて陶芸制作を行ったことがなかったことが分かった。陶芸に触れ合う機会が今までになかった参加者からは「陶芸をする機会が今までになく、初めて皿をつくりました。釉薬の知識や粘土でお皿やコップを作ることが難しいという事がわかりました。」という参加者自身の中で気づきがあった回答もあった。

多くの参加者から陶芸の知識が深まったという回答があったが、全く知識は身につかなかったという回答もあった。陶芸に触れたことがない参加者や留学生など、より多くの参加者が少しでも陶芸に対して知識や関心が持てるように工夫することを検討する必要があると感じた。

未回答を除く全員から陶芸教室が楽しかったという回答、プロジェクトに対して高い満足度であるという回答を得ることができた。

発見や学びでは釉薬に関することが多かった。陶芸の歴史や様々な技法など知識をより視覚的にもっとわかりやすく、さらにクイズ形式にするなどして工夫をする必要があったのではないかと感じた。

